

令和7年度 (気仙沼支援) 学校の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名 (小野寺 由紀)

研究テーマ	「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた支援の在り方」 ～ 「授業づくり手立て一覧表」を活用した授業の工夫を通して ～ (3年次)
研究目標	児童生徒一人一人の適切な実態把握と、学習指導要領を踏まえた授業計画や授業の振り返りと授業改善を通して、個々の児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた支援の在り方を検討・実践し、よりよい授業づくりを目指す。
研究内容・方法 研究計画等	<p>1 研究期間：3年間（本年度3年次）</p> <p>2 本年度の取組</p> <p>(1) 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けた授業計画と授業づくり，授業実践</p> <p>「単元計画シート」を活用した学習グループごとの話し合いを基に、協力して授業の準備を行い、児童・生徒の実態や支援方法を共有した上で授業実践に取り組んだ。</p> <p>(2) 授業の振り返りと授業改善</p> <p>付箋紙を用いた授業の振り返りを継続して実践した。研究研修部から、授業の手立てを累積した「授業づくり手立て一覧表」を配付し、授業づくりに役立てた。</p> <p>(3) 個々の児童生徒の学習段階の把握と学習の蓄積</p> <p>本校で学習指導要領の内容の部分を一覧表にまとめた「内容一覧表」に学習状況を達成(○)または継続指導(△)を記入して蓄積することで、個々の各教科・領域の学習段階及び達成状況を正しく把握できるようにした。また、その状況から個別の指導計画の目標を設定することにもつなげた。</p> <p>(4) 研修会</p> <p>校内研究研修会として、宮城教育大学 教職大学院 特別支援教育専攻 教授 菅井裕行先生を講師としてお招きし、「共創的コミュニケーション」～重度・重複障害のある子どもとの係わり合いから～のテーマのもと研修を行った。</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p><研究経過></p> <p>昨年度の成果と課題を受け、3年計画の3年目となる今年度は、「授業づくり手立て一覧表」と「単元計画シート」を活用した授業づくりと評価の工夫に重点をおいて実践に取り組んだ。「授業づくり手立て一覧表」は、これまでの授業実践の手立てを一覧表にまとめたものであり、授業づくりに役立てたり、指導案に明示し、評価の視点としたりした。昨年度、「授業計画構想シート」の活用が十分になされなかったという反省を受け、今年度は、国立特別支援教育総合研究所の「単元計画シート」を活用して、学習グループごとに授業の話し合い、及び準備を行い、個別の達成状況を評価した。年間、一人一事例の実践に取り組み、成果を共有した。授業の振り返りについては、色分けした付箋紙を使って、手立ての有効性について評価した。ピンクの付箋には「主体的な学び」、黄色の付箋には「対話的な学び」、水色の付箋には「深い学び」に関する意見や児童生徒の姿について記入し、各学部の職員室に設置している「授業振り返りコーナー」に貼り出し、授業改善につなげた。しかし、付箋による授業の振り返りは、視点ごとに意見を集約する際に時間がかかることから、校内の教務システムのアンケート機能を使って授業を評価し、主体的、対話的、深い学びの視点から授業を振り返る試みも行った。内容一覧表を使つての学習状況の蓄積は、その状況を踏まえ個別の指導計画の目標設定の目安としたり、引継ぎ資料として活用したりした。校内研究研修会では、毎年、テーマを絞って研鑽を積んでおり、今年度は重度・重複障害の教育について理解を深めた。</p> <p><研究成果></p> <p>年度初めには、内容一覧表をもとに、児童生徒の学習状況の把握し、個別の指導計画の目標を設定した。授業づくりにおいては、「授業づくり手立て一覧表」を活用して「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けて手立てを講じて実践につなげたり、授業の振り返りの視点としたりすることができた。また、「単元計画シート」を活用して、単元で取り扱う各教科、段階、内容を整理し、個別の達成状況を評した。さらに、授業の振り返りでは、付箋紙やアンケートを使って評価を集約し、授業改善につなげることができた。</p>

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。